

教育情報コーナーからのお知らせ



あっという間に、夏休みも終わりさあ2学期。
スタートをうまく滑り出させるためには教室経営が基本ですね。
まずは「あいさつ」から。あいさつは人間関係の基本です。
「あいさつ」について今一度考えてみましょう。

あいさつの3つの表出

(1) 心のあいさつ

K先生は子どもたちが登校してくる時間には教室に居るようにしています。子どもたちの（自分の居場所にもどってきた）との感覚を大切にしています。そこにある＜居場所＞が子ども個々の表情を笑顔にしたり手際のよい朝の動き（係活動や登板活動）にしています。そして、「おはよう」の言葉もスムーズに出ています。

(2) 言葉のあいさつ

子どもたちからの「おはようございます」との言葉が聞こえると、教師の精神性も豊かになります（この子と一緒に充実した学びができそうだ…と。）この一言は子どもとの関係づくりを向上させる起爆剤になります。ですから、万一そこに気まずい関係が生じていたら、まずはあいさつの一言からその関係性を修復しましょう。
言葉の力を信じましょう。

(3) 行動のあいさつ

子どもたちに動きのある学習や遊びがあるとき、教師から「よくやっているね」「先生うれしい」「うーん、ありがとう」などの言葉がでます。子どもの学びの事実や行動に教師が学ぶと、子どもとの間に習慣化された笑顔や「うれしいね」「ありがとう」などのあいさつ言葉がみられるようになります。そこには、教師の“SSSD”（スピード・スマイル・センス・デリカシー）のある感覚と軽やかな行動がみられます。

